



平成 27 年度消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文

「とび口の柄の形状改良について」

# 全国最優秀賞受賞!

受賞者

鯖江・丹生消防組合消防本部

消防司令 山本 晃 弘さん

消防司令補 関 竜 也さん

消防司令補 直井 馨一郎さん



牧野消防組合管理者に笑顔で受賞を報告する、山本さん、関さん、直井さん(左から)



柄を波型に改良したとび口(写真手前)と柄が一直線の従来型のとび口。

この消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文は、消防職員の資質の向上と消防の発展に寄与することを目的に、(一財)全国消防協会が毎年募集しており、昨年は全国から133作品の応募があり、その中から3人の提案が見事最優秀賞に選ばれました。

「とび口」とは、破壊、障害物除去などの消防活動に不可欠な器具として高い頻度で使用され続けています。しかし、「とび口」を使用する作業は決して楽なものではないため、消防隊員に掛かる負担を格段に軽減し、安全な活動が行える「とび口」の柄の形状を考案し改良することに成功しました。従来は柄の部分が一直線のため、持った時に手首の角度が不自然になり、強く握りにくいため、引き寄せたり押し込み動作では滑りやすいというものでした。しかし、今回の改良で柄を波型にすることで、自然な手首の角度になり、力が入れやすく厚手の手袋でも滑ることなく、引き寄せたり押し込む動作が容易にできるというものです。実証実験では、従来品と比較して、張力では10kg以上、作業効率も最大4倍以上の仕事量を得るなど目を見張る結果が得られました。以上の点が評価されての受賞となりました。

器具の改良を提案した3人は、「消防活動において、最も留意しなければならないのは、安全管理の徹底です。安全管理上、活動時間の短縮と隊員の疲労軽減は最も効果的で、配慮すべき点であるので、今回考案した器具の改良がその一翼を担えると確信しています」と話していました。

消防職員の皆さんは、自分たちに課せられた日々の責務の中で、業務改善にも取り組んでいます。このようなことから、私たち市民の安全・安心は守られているんですね。

問合せ 鯖江・丹生消防組合消防本部総務課 ☎54-9110



## ふるさと散歩道

### 鯖江の近代史と歩兵第三六連隊 (八)

#### 富国強兵と教育制度

明治五年(一八七二)、欧米にも負けない国づくりを進める政府は、国民の教育を重要視し、日本で最初の学校教育制度法である「学制」を公布しました。これを機に鯖江市域では二八校の小学校が創立され、身分・性別を隔てない教育が始まりました。しかし、学費を租税とみたり、一家の働き手である子どもを家から出すことを渋る家庭も多く、就学率が九割を超えたのは四〇年代に入ってからでした。

明治中頃には教育勅語と明治天皇の御真影が各学校へ下賜され、天皇尊崇の基盤が培われていきました。また、三六連隊を鯖江に迎えると、惜陰小学校では現役軍人による兵式体操の授業が始まりました。さらに、子どもたちは「報国尽忠の志操」を養成するため、応召兵士の見送りや戦死者の葬儀にも動員されていきました。

「富国強兵・殖産興業」のスローガンのもと導入された新しい教育制度は、子どもたちに平等に勉学の機会を与え、同時に、近代国家づくりの戦略にも重要な役割を果たしていったのです。

(文化課 藤田 彩)



大正6年頃の惜陰尋常高等小学校(『鯖江町写真帳』)

第260回